

新規事業評価調書

【道路事業】

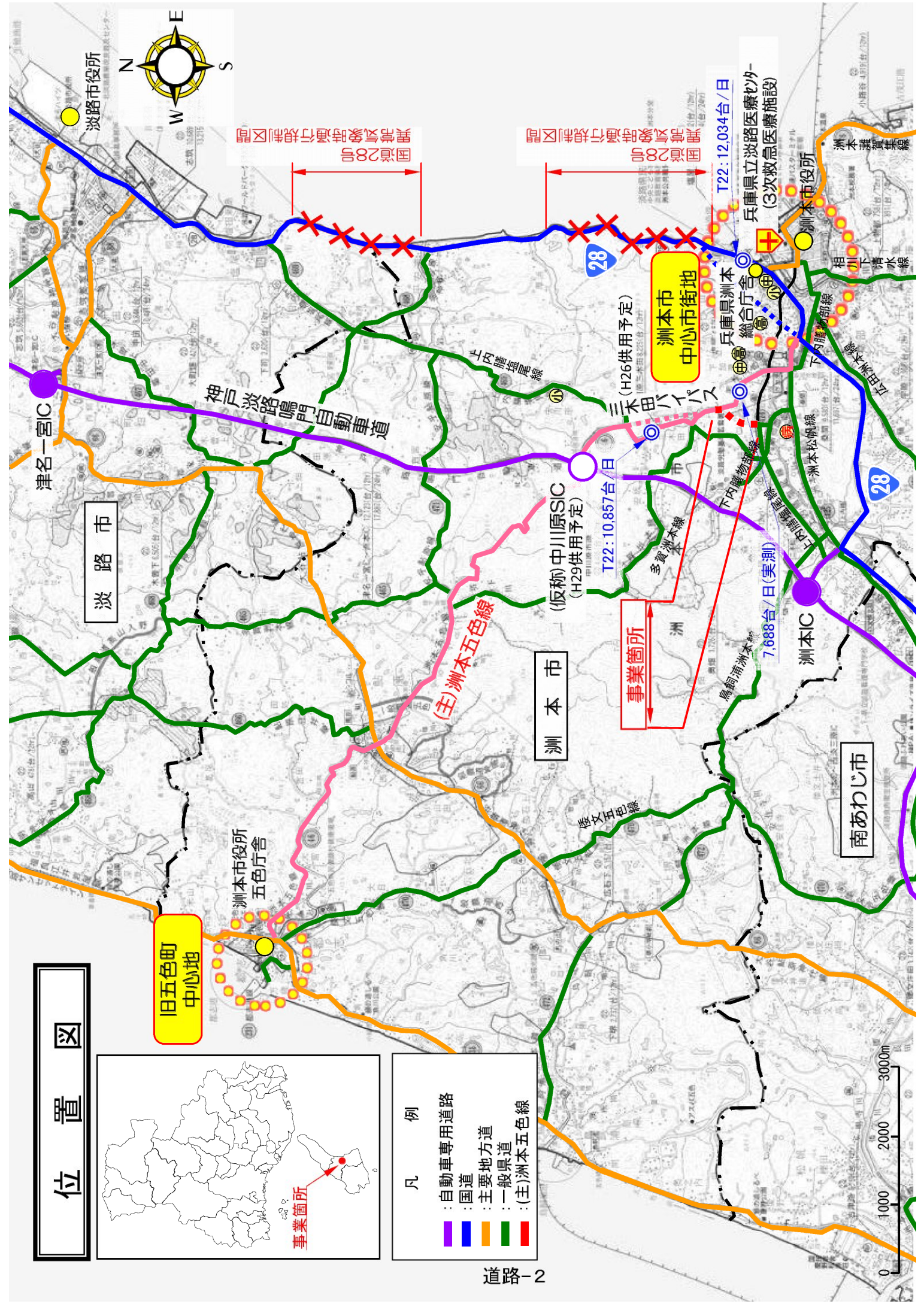
主要地方道 洲本五色線

県土整備部

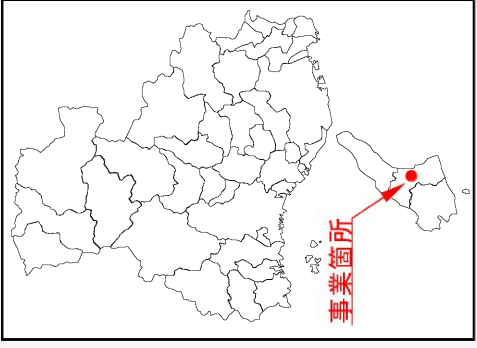
土木局 道路街路課

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 田中 剛 (県道係長 金川 正敏)	内線	4362 (4376)	
事業種目	事業名	事業区間	総事業費	内地地補償費	着手予定年度	完了予定年度
道路事業	道路改築事業 主要地方道洲本五色線 <small>すもとごしき</small>	洲本市上加茂 <small>かみがも</small>	約 8.3 億円	約 5.6 億円	平成 26 年度	平成 29 年度
事業目的			事業内容			
<p>本路線は淡路島のほぼ中央に位置し、洲本市街地と旧五色町を結ぶ東西の幹線道路である。また、洲本市街地から(仮称)中川原スマートインターチェンジ[®](H29年度末供用予定)への主要アクセス道路となる。</p> <p>○(仮称)中川原スマートインターチェンジ[®]へのアクセス道路の整備 現道は、幅員狭小・線形不良・歩道未整備であり人身事故が発生している。今後、スマートインターチェンジ[®]の開設による交通量の増加に対応するため、スマートインターチェンジ[®]へのアクセス強化とともに円滑な交通と通学生等の安全を確保する。</p> <p>○緊急輸送道路の機能強化 本路線は、緊急輸送道路に位置付けられている。また、国道 28 号の代替路線の役割を担うことから、緊急輸送道路及び代替路線としての機能強化を図る。</p> <p>○社会・経済活動の支援 (仮称)中川原スマートインターチェンジ[®]へのアクセスを強化することで、広域的な救急医療体制の充実、観光振興や企業誘致等の経済活動を支える。</p>			<p>【延長】道路改築 660m</p> <p>【構造規格】第3種第3級</p> <p>【計画幅員】2車線 片側歩道2.5m 車道6.0m (全幅10.0m)</p> <p>【計画交通量】5,900台/日(H42予測)</p> <p>【現道交通量(H25年12月17日実測)】</p> <p style="padding-left: 20px;">自動車交通量：7,668台/日</p> <p style="padding-left: 20px;">歩行者交通量：4人/12h</p> <p style="padding-left: 20px;">自転車交通量：67台/12h</p> <p>【負担割合】</p> <p style="padding-left: 20px;">国55% 県45%</p>			
評価視点		評価結果の説明				
(1) 必要性		<p>①本事業区間の現道は幅員狭小かつ線形不良である。</p> <p>②中学校の通学経路に指定されているが、歩道が未整備であることから、自動車の離合困難による人身事故が多発している。</p> <p>③(仮称)中川原スマートインターチェンジ[®]の供用により本路線を利用する交通量が増加するため、沿道環境の悪化も懸念される。</p> <p style="padding-left: 20px;">これらのことから、本事業(バイパス整備)により円滑な交通を確保するとともに、通学生等の安全を確保する必要がある。</p>				
○交通の円滑化及び安全性の向上						
○防災機能の強化		<p>①本路線は、緊急輸送道路に位置付けられている。</p> <p>②国道28号(緊急輸送道路)が異常気象時通行止の際、本路線が迂回路となる。</p> <p style="padding-left: 20px;">このため、緊急輸送道路及び国道28号の代替道路の機能強化を図り、災害への備え、地域の防災安全性の向上を図る必要がある。</p>				
○地域の活性化		<p>①(仮称)中川原スマートインターチェンジ[®]の設置は、島内唯一の第3次救急医療機関である県立淡路医療センターの広域的な救急医療体制の充実や観光振興、企業誘致等による地域活性化が期待されている。このため、アクセス道路を強化し地域の活性化を支援する。</p>				
(2) 有効性・効率性 (事業執行環境)		<p>①費用便益比 B/C=1.7</p> <p>②(仮称)中川原スマートインターチェンジ[®]の供用に合わせた本事業の整備により、救急医療体制の充実、観光振興、企業誘致等において相乗効果が期待できる。</p> <p>③完成後の現道の管理引継について、洲本市と協議が整っている。</p>				
(3) 環境適合性		<p>①現道の通過交通が本路線に転換され、自動車に起因する道路交通騒音や大気環境に関する沿道環境が改善される。</p> <p>②歩道部を透水性舗装にすることで、雨水の還元を図る。</p> <p>③他工事の発生土を盛土材として活用し、資源循環に努める。</p>				
(4) 優先性		<p>(仮称)中川原スマートインターチェンジ[®]がH29年度末供用予定であるため、早期の事業着手・供用が求められている。</p>				



位置図



- 凡例
- 自動車専用道路
 - 国道
 - 主要地方道
 - 一般県道
 - (主)洲本五色線

淡路市

洲本市

南あわじ市

旧五色町
中心地

洲本市
中心街地

事業箇所

(仮称)中川原SIC
(H29供用予定)

三木田バイパス
(H26供用予定)

T22: 12,034台/日

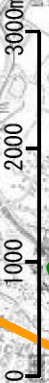
T22: 10,857台/日

7,688台/日(実測)

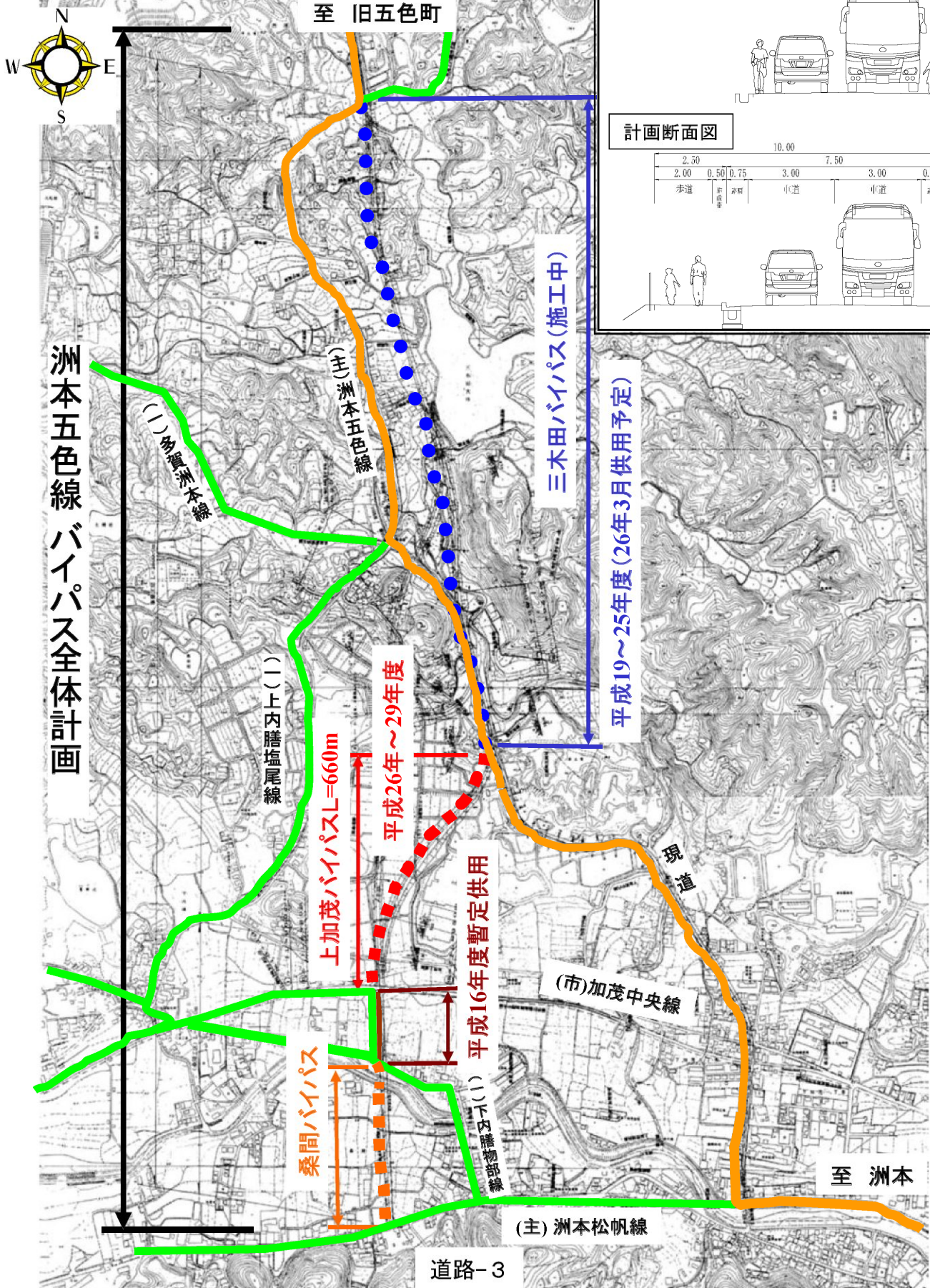
兵庫県立淡路医療以外-
(3次救急医療施設)

28号区間

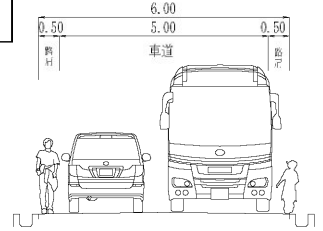
28号区間



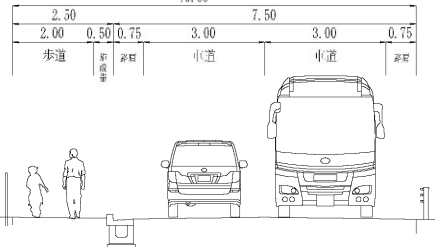
洲本五色線 バイパス全体計画



現況断面図



計画断面図



洲本五色線 バイパス全体計画

至 旧五色町

三木田バイパス(施工中)

平成19~25年度(26年3月供用予定)

平成26年~29年度

上加茂バイパスL=660m

平成16年度暫定供用

桑間バイパス

(主) 洲本松帆線

道路-3

至 洲本

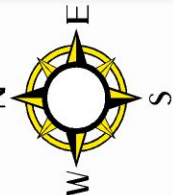
(市)加茂中央線

現道

(一) 勿通深本線

(二) 上内膳塩尾線

緊急・救急時の必要性



凡 例

- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 異常気象代替道路

0 1000 2000 3000m

旧五色町
中心地

洲本市役所
五色庁舎

1. 緊急輸送道路としての機能を強化

本事業により2車線を確保し、第2次緊急輸送道路としての機能を強化。

2. 異常気象時における国道28号の代替道路機能の強化

国道28号（第1次緊急輸送道路）には、異常気象事前通行規制区間が存在し、大雨時には通行止が発生。通行止時には、国道28号利用者は、本路線を迂回路として利用。

国道28号 異常気象事前通行規制区間の通行規制実績

【区間①】 淡路市塩尾～洲本市安平町平安浦		延長約1.8km
規制日時	解除日時	通行止時間
H23年9月3日 17時20分	H23年9月4日 1時50分	8時30分
H23年9月20日 9時20分	H23年9月21日 11時10分	25時50分
H25年9月16日 0時30分	H25年9月16日 8時10分	7時40分
通行止時間合計		42時00分

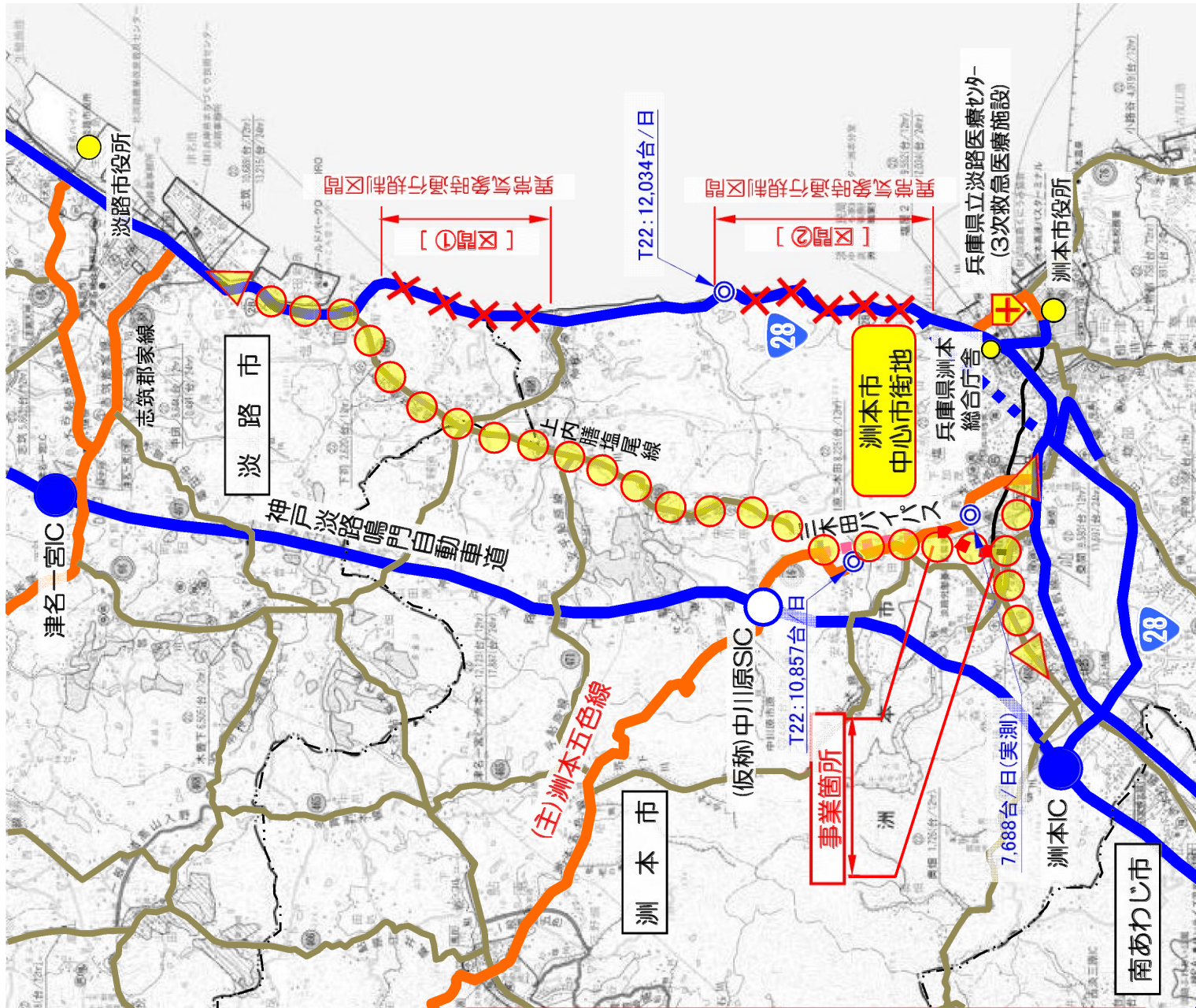
(通行規制基準 連続降雨量160mm)

【区間②】 洲本市中川原町厚浜～洲本市炬口		延長約2.9km
規制日時	解除日時	通行止時間
H23年5月29日 18時20分	H23年5月30日 5時00分	10時40分
H23年9月3日 17時20分	H23年9月4日 1時50分	8時30分
H23年9月20日 9時20分	H23年9月21日 11時10分	25時50分
H25年9月15日 20時30分	H25年9月16日 8時10分	11時40分
通行止時間合計		56時40分

(通行規制基準 連続降雨量160mm)

3. 救急医療へのアクセス機能が向上

(仮称)中川原SICの建設にあわせ、本事業の実施により、県立淡路医療センター（第3次救急医療機関）へのアクセス機能が向上。



1. 実施工程表
当初計画

工種	年 度														
	H26			H27			H28			H29					
調査・設計	詳細設計														
	用地測量														
用地補償															
道路改良															

2. 事業効果について

(1) 費用対効果

① 便益(B)の項目

事業	B(便益)	算出方法
道路	① 走行時間短縮便益 ○ 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無し時の走行時間費用－整備有り時の走行時間費用 走行時間費用：Σ(交通量×走行時間)×時間価値原単位×365日
	② 走行経費減少便益 ○ 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無し時の走行経費－整備有り時の走行経費 走行経費：Σ(交通量×距離)×走行経費原単位×365日
	③ 交通事故減少便益 ○ 交通事故が減少することによる便益	整備無し時の事故損失額－整備有り時の事故損失額 事故損失額：Σ(交通量×距離×交差点以外の事故損失原単位＋交通量×主要交差点数×交差点部事故損失原単位)

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C
		便益額(百万円)			総費用(百万円)	事業費(百万円)	維持管理費(百万円)	
道路	道路改築事業 主要地方道 洲本五色線 上加茂バイパス	① 走行時間短縮便益	1,108	計画交通： 5,900台/日(H42)	753	716	37	1.7
		② 走行経費減少便益	156					
		③ 交通事故減少便益	17					
		計	1,281					

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① (仮称)中川原 IC の供用に合わせた整備により、観光振興や企業誘致等による地域の活性化
- ② 県立淡路医療センター(3次救急医療機関)へのアクセス機能の向上による救急医療体制の充実
- ③ 旧五色町と洲本市街地を結ぶ災害時の緊急輸送道路の機能強化
- ④ 異常気象通行規制時の国道28号の代替路線として機能強化

道路街路事業の効果

対象事業：道路事業（主）洲本五色線 上加茂バイパス

(1) 費用対効果

効果項目（費用対効果の便益内容）	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

(2) 費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等	
①安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 （※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備）	○ 緊急輸送道路としての機能を強化 県立淡路医療センター(災害拠点病院)へのアクセス機能の向上
		救助・救援活動の支援 （※災害時の通行不能や孤立集落の解消）	○ 国道28号の異常気象時通行止め区間の代替道路機能の強化
		減災対策への取り組み （※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保）	—
	平時	救急医療体制の支援	○ 県立淡路医療センター(第3次救急医療機関)へのアクセス機能の向上
		交通安全対策	○ 通過交通の転換による、現道利用者の安全性の向上
②地域の活性化	地域間交流の促進	○ 旧五色町中心地と洲本市中心市街地のアクセス機能の向上	
	中心市街地の活性化	○ (仮称)中川原スマートインターチェンジへのアクセス機能の向上による洲本中心市街地の活性化	
	地域産業の活性化	○ (仮称)中川原スマートインターチェンジへのアクセス機能の向上による本州・四国など広域的な産業の活性化	
	観光支援	○ (仮称)中川原スマートインターチェンジへのアクセス機能の向上による観光資源の相互連携	
	地域プロジェクト等の支援	○ 平成29年度末供用予定の(仮称)中川原スマートインターチェンジ	
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節点の機能の向上	○ 通過交通の転換による、路線バスの定時性確保	
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○ 通過交通の転換による現道の沿道環境の改善 歩道部を透水性舗装とし雨水を地下に還元	